

# 令和6年度 九久平小学校 学校自己評価 集計データ

4 = とてもよい    3 = まあまあよい    2 = あまりよくない    1 = よくない

3. 3 以上

2. 8 以下

番号	評価項目	評価の着眼点	令和6年度 評価平均	令和5年度 評価平均	令和4年度 評価平均	令和3年度 評価平均	令和2年度 評価平均
5	学校教育目標	地域の特色や学校の実態に即した学校教育目標を設定し、児童生徒・保護者・地域の理解を得ている。	3.2	2.9	3.4	3.3	3.2
6	特色ある学校づくり	特色ある学校づくり推進事業が児童生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている。	3.5	3.6	3.8	3.6	3.7
7	施設管理	施設、設備の点検・管理を日常的に行い、その機能を十分に生かして教育活動に活用している。	2.8	3.0	3.2	3.2	3.2
8	家庭・地域連携	保護者・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進めている。	3.1	3.4	3.5	3.3	3.3
9	学習指導	学年の学習目標や学習内容を知らせている。	2.9	3.3	3.5	3.2	3.1
10	学習指導	体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れた授業を展開し、児童生徒の学習を充実させている。	3.1	3.5	3.6	3.4	3.3
11	学習指導	個別指導、グループ指導やＴＴ・少人数指導等の工夫を積極的にに行い、個を生かす学習指導を充実させている。	2.8	3.1	3.2	3.2	3.1
12	学習指導	指導方法や教材の工夫等により基礎基本の定着度を向上させている。	2.9	3.0	3.3	3.3	3.1
13	学習指導	子どもの学習状況について、懇談会等での確に説明している。	3.1	3.3	3.4	3.3	3.1
14	道德教育	学校教育活動全体を通じて、体験活動やボランティア活動を取り入れ、心の教育を充実させている。	2.9	3.0	3.2	3.1	3.1
15	教育相談	児童生徒と日々のふれあいを大切にするとともに、教育相談を計画的に実施し、児童生徒理解に努めている。	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5
16	特別活動	学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等を活用し、児童生徒の自発的、自治的な活動の充実に努め、成就感、感動を味わわせている。	2.9	3.1	3.4	3.3	3.3
17	生徒指導	基本的生活習慣の定着や規範意識の向上のために、具体的な方策を講じている。	2.9	2.9	3.1	3.2	3.2
18	生徒指導	いじめ、不登校、触法行為などの予防と早期発見、早期対応に努めて、職員の共通理解のもと組織的に対応している。	3.1	3.2	3.5	3.8	3.7
19	健康教育	心身の健康に留意し、主体的に健康づくりや体力づくりができる態度を身につけさせる指導を充実させている。	3.4	3.3	3.6	3.6	3.4
20	学校図書館教育	図書館の整備に努めるとともに、学校図書館司書との連携を図り、豊かな心を育む読書活動を進めている。	3.2	3.3	3.1	3.2	3.2
21	情報教育	情報活用能力を高めるとともに、デジタル・シティズンシップの向上を図っている。	2.8	3.3	3.3	3.4	3.3
22	安全教育	自らの安全を守るための正しい知識と行動に関する指導を計画的に行い、意識の高揚を図っている。	3.2	3.4	3.4	3.2	3.2
23	教育課程	学習指導要領をふまえ、各学校の指導計画に基づいて、適切に実施している。	2.9	3.1	3.1	3.0	2.9
24	家庭・地域連携	地域・保護者ボランティア等を継続的に活用し、地域活性化に視点をとおした地域ぐるみの教育活動の展開に努めている。	3.1	3.3	3.4	3.1	3.1
25	家庭・地域連携	保護者や地域・近隣の園や学校、関係機関と連携した危機管理マニュアルを作成し、運用するよう努めている。	2.6	3.1	3.1	3.0	3.0
26	学校経営	教育活動推進のために、教職員の共通理解が図られ、学校が組織として機能している。	2.9	3.2	3.3	3.0	3.3
27	学校評価	学校評価の結果を教育活動の改善・充実に活用している。	3.1	3.1	3.4	3.1	3.3
28	園・小・中連携	こども園と小学校、小学校と中学校、のように近隣の園小中との指導の連携に努めている。	3.1	3.3	2.9	2.9	2.7
29	特別支援教育	特別な支援を要する児童生徒の状況を把握し、保護者・関係機関との連携を踏まえた個別の支援計画を立て、全校体制で支援している。	3.1	3.3	3.6	3.4	3.3
30	健康教育	健康な身体づくりに必要な食生活の充実にに関する指導を、計画的に行っている。	2.9	3.2	3.1	2.9	3.0
31	国際理解教育	学習や行事等を通して共生の心を育てるとともに、小学校においては、小学校外国語教育を充実させている。	3.2	3.3	3.4	3.4	3.0
32	環境教育	主体的に環境保全に取り組む態度の育成に努めている。	3.4	3.5	3.7	3.7	3.5
33	キャリア教育	望ましい勤労観、職業観がもてるよう、各学年に応じた系統的な指導を行っている。	2.7	3.0	3.0	3.1	2.8
34	教員育成	学校全体で、テーマを明確にし、組織的・計画的・継続的に現職教育研修が進められている。	3.0	2.9	3.0	3.2	2.9
35	教員育成	非違行為撲滅のため、計画的、継続的に職員が意識できるような取組が行われている。	3.3	3.3	3.4	3.4	3.3
36	教員育成	新たな学びのスタイルの推進のため、学校全体でＩＣＴ活用指導力の向上に努めている。	2.8	3.2	3.7	3.6	3.7
37	多忙化解消	学校全体で、多忙化解消に向けた取組を推進している。	2.9	2.9	3.1	3.4	2.9

「みどりの活動の推進6番」「児童とのふれあいや教育相談活動の実施15番」「主体的な健康づくりや体力づくりに関する指導19番」「主体的な環境教育への取組32番」「非違行為撲滅を目指す教員育成35番」については、直近の5年間で自己評価が3.3以上で安定しています。「みどりの学校」の伝統を受け継ぎ、保護者・地域を巻き込んだ特色ある学校づくりが根付いていると感じています。「心身の健康教育」については、継続的に取り組んでいる「いいところを伝え合う日」や、児童の実態に合わせた「学校保健集会」の実施、スクールカウンセラーやはあらウングスタッフとの連携による成果を教職員が感じていることがうかがえます。ただし、「いじめ・不登校等の予防と早期発見、早期対応18番」については、教職員は十分心がけて大切にしているつもりですが、保護者アンケートでも保護者の皆様にはまだまだ伝わっていないところがあるようです。今後も以上に意識して、子どもたちの日々のふれあいを大切に児童理解に努め、子どもからの小さなサインを見逃さず、教職員共通理解のもとと早期発見、早期対応に心がけてまいります。「学校教育目標「自ら求める子」の児童・保護者・地域への理解5番」については、全校集会や各種行事の校長講話や『あじさい賞』の発行による「自ら求める子」の推奨、学校だよりやホームページを活用した情宣を意識して行ったことが自己評価に反映されていると考えます。今後も、学校・家庭・地域が手を取り合い、教育活動を推進できるように努めてまいります。

「情報活用能力を高め、デジタル・シティズンシップを身につけさせる情報教育21番」「新たな学びのスタイルの推進のための、ICT活用指導力の向上36番」については、直近の5年間のなかでも低い自己評価となりました。これらは、昨年度までのコロナ禍において取り組んできた現職教育が「ICT機器を活用した教材開発」であったものを、今年度は「主体的な学びの姿を引き出す授業の工夫」としたことによるものと考えます。これまでの現職教育で培ってきたICT機器を有効的に活用した授業づくりを継続しつつ、教職員のさらなる力量向上に努めてまいります。また、「保護者や地域、関係機関と連携した危機管理マニュアルの作成と運用25番」「系統的なキャリア教育33番」についても、自己評価の低下が見られました。危機管理については、学校・地域の特性や実情に即した危機管理マニュアルを作成し、PTA会議や学校運営協議会等で保護者や地域との連携を確認したり、関係機関と連携した訓練を実施したりして、実際に機能するマニュアルになるよう定期的な見直しと改善を図っていきます。また、キャリア教育については、児童が学習や行事等の記録を蓄積するキャリア・パスポートやキャリア・ノートを継続的に活用し、児童自身がキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることができるように努めてまいります。